

野菜用ナタネ新品種「みえ緑鮮2号」						
[要約] 野菜用ナタネ「みえ緑鮮2号」は在来種と同様に早生品種で多収であり、葉面のワックス質が少ないため緑が鮮やかな新品種である。						
三重県農業技術センター・栽培部・野菜栽培担当					連絡先	05984-2-6359
部会名	野菜・花き	専門	育種	対象	花菜類	分類 普及

[背景・ねらい]

現在、市場に出荷されるナバナは大きく分けて2タイプ (*Brassica napus*と*B. campestris*) がある。三重県のナバナは洋種ナタネ (*Brassica napus*) の主枝及び側枝の若い茎葉を可食部とするもので、三重県はこのタイプを栽培する全国1位の産地である。近年、産地間競争の激化に伴い、早期出荷ができて商品価値の高いものが求められていた。

そこで、早生・多収で、葉色に特徴のある品種の育成を図ろうとした。

[成果の内容・特徴]

1. 育成経過

三重県長島町より導入された数系統の在来種を平成元年から栽培したところ、その1系統の中でワックス質の少ないものが1株発生した。

この自然突然変異個体1株を鉢上げて採種し、平成2年から3年にかけて固定度を確かめると同時に集団採種をした。平成4年から特性調査を開始し、在来系統等と比較検討し、平成5年から現地調査を開始している。

以上のことから、育成品種の区別性・均一性・安定性が認められたので、現在登録申請中である。

2. 特性

- 1) 草姿、草丈は中型で葉数は多く、草形は長い楕円形で鋸歯はわずかにみられる。
- 2) 葉色は緑で、葉面の着色はなく、ワックス質は少ない。このため光沢があり、色が鮮やかなため商品価値が高い。
- 3) 葉面の毛じはなく、葉面や葉縁の波うちはわずかに認められ、小葉は少ない。
- 4) 葉肉の厚さや葉柄の長さは中程度で、葉柄基部の幅は少し狭い。
- 5) 早晩性や抽苔性はいずれも早生で、耐寒性、耐雪性は中程度、高温期の栽培は余り適さない。
- 6) 収量は在来種と同程度である。
- 7) 耐病性は在来種と同程度で、したがって根こぶ病に罹病性である。

[成果の活用面・留意点]

長期の積雪地や厳寒地を除けば栽培が可能である。

早まきの場合は、根こぶ病に抵抗性がないので発生地での栽培は避ける。

[具体的データ]

表1. 主要形質の特性表

品種名	早晩性	草姿	草丈	葉形	葉色	葉面のワックス質	収量	根こぶ病
みえ緑鮮2号	早生	中	中	長楕円	緑	ほとんど無	多	罹病性
在来種	早生	中	中	長楕円	淡緑	中	多	罹病性
伊勢なばな	中晩生	中	中	長楕円	淡緑	中	多	罹病性

表2. 生育および生態調査 (平成4年度)

品種名	定植時			1月22日				
	草丈 (cm)	葉数	地上部重 (g)	草丈 (cm)	最大葉長 (cm)	主枝数	側枝数	抽苔の早晩
みえ緑鮮2号	15.7	4.8	2.6	101	67	12.2	3.8	早生
在来種	16.7	4.4	3.4	112	75	11.7	4.4	早生

栽培概要: 播種 8月31日 v4^h-h^h-h^htt 定植 9月25日

(注) 定植時: 9月25日 10株調査

1月22日: 播種後143日 5株調査

主枝は株元20cm上のもの、側枝はそれ以下から発生したもの

表3. 1株あたり時期別・等級別収量 (平成4年度)

品種名	等級	12/2		1/20		3/2		3/12		計	
		本数	重量 (g)	本数	重量 (g)	本数	重量 (g)	本数	重量 (g)	本数	重量 (g)
みえ緑鮮2号	上物	7.7	93.6	13.0	124.0	10.8	78.8	14.2	110.0	45.4	406.4
	下物	2.0	10.4	2.0	11.2	4.6	22.8	7.8	47.2	16.2	91.6
在来種	上物	7.6	95.6	10.4	114.0	15.8	119.2	8.2	61.0	42.0	389.8
	下物	2.0	9.2	1.6	10.0	8.2	56.4	0.8	4.8	12.6	80.4

栽培概要: 播種 8月31日 v4^h-h^h-h^htt 定植 9月25日 5株調査

[その他]

研究課題名: ナバナの早期多収系統の選抜

予算区分: 県単

研究期間: 平成6年度 (平成1~6年)

研究担当者: 西口都夫